

## 第 42 回「SNS」(2014/2/16)

場所：Cafe ALBA青山

司会、文責：野田

参加者：13 人

要約：身近なものになりつつある SNS について、どういった影響を受けるか、どう役立ったかについて対話しました。

内容：

### 1. お題の説明

- ・ 身近なものになりつつある SNS に関して、議論します。SNS は” Social Networking Service” の略語で、Social は社会的と訳されることが多いですが、” Social dance” のように社交という意味もあります。定義があいまいですが、Facebook, Mixi, LINE, Google+, Twitter, LinkedIn などのネット上で人と繋がるツールを取り上げます。

### 2. SNS の特性

- ・ Facebook の「いいね」に対する違和感がある。対面での人と人との関わり合いでは、「いいね」だけではなく、薄い反応や、ネガティブな反応など多様な反応がある。
- ・ Facebook や Mixi はポジティブなレスポンスを期待する空間であり、自分が傷つけないことが担保されるようだ。また、本音を語る場ではないようだ。表層的なきれいなものが書かれやすい。
- ・ Facebook や Mixi などのように、コンテンツをアップするツールを使う人の一部は、自分の存在をアピールし、知らせることで、自分の存在を自己確認し、人に認めてもらいたいのもかもしれない。Facebook や Mixi やブログは自分の生活をコンテンツに変える、一種の出版のようなもの。
- ・ Facebook や Mixi では、他人から見えるキャラクター（人格）を保つプレッシャーを受ける。冗談の文脈を作りにくい。
- ・ 3.11 で被災した際に仙台にいたが、Twitter は情報を集めるツールとして大変有用であった。
- ・ Twitter はどうでもいいようなことでも書いてよい。なんでもありであるがゆえに、有用な情報がアップされることもある。

### 3. SNS と付き合い

- ・ LINE は便利だが疲れる場合もある。例えば、同じ職場の人のように、よく顔を合わせる人と LINE をすると、付き合いが一日中ずっと続くので疲れる。
- ・ Facebook や Mixi は、接点のなかった人と共通性を見出して仲良くなるためのツールとして活用してきた。ある程度仲良くなったら、Facebook や Mixi で表には出さない、

個人的な情報や考えをメールなどの一対一のツールでやり取りしてきた。仲良くなる人は SNS 上の「友達」のごく一部である。

- 人とのつながりを維持するために、Facebook や Mixi や LINE では定期的なコミュニケーションが必要となる。コミュニケーションがなくなってしまうと、繋がりが無くなったと思われそうである。昔は手紙一通を時々送ればよかったので、つながりを維持するためのコストが昔より上がっているかもしれない。
- SNS に限らず、人との付き合い方や、どういうコミュニケーションがいいかは、個人が決めていくしかない。

参加者の方には SNS をやってらっしゃる方とそうでない方が半々程度でした。SNS 使用者から否定的な意見が多数挙がった一方、Twitter、Facebook、メール（一対一通信）の特性に応じて使い分けしているとの貴重な意見も出され、率直な意見交換が行われました。